

令和5年度婦人市政懇談会

人にやさしいまち神戸をめざして

～希望あふれるまちを次世代に～

にこたえて

令和6年4月

神戸市

目 次

はじめに	2
I. 駅前リノベーションの推進	
(1) 駅前リノベーションの推進	
① 文化ホール跡地活用の検討について	4
② JR 兵庫駅北側駅前広場について	4
③ JR 新長田駅の駅前広場の再整備について	5
④ JR 須磨駅周辺の整備について	6
⑤ 垂水駅周辺整備について	7
⑥ 新垂水体育館へのアクセスについて	7
⑦ 玉津庁舎全体のリニューアルについて	7
⑧ 鈴蘭台駅周辺の活性化・整備について	8
II. 子どもがのびのび学び、健やかに成長できる環境整備	
(1) 地域コミュニティの核となる小・中学校、幼稚園の教育環境整備	
① 学校施設の増築や広い校区への対策について	9
② 各地域における学校の役割や歴史などに十分配慮した支援	9
③ 「義務教育学校八多学園」について	10
④ 市営住宅跡地などを活用した認定こども園の整備	10
⑤ 市立魚崎幼稚園における3年保育の実現について	10
(2) 子どもが思いきり遊べる環境整備	
① 公園再整備や行政の支援強化について	11
② 公園内の年代による区画分け	11
③ 市営住宅(八幡住宅)の児童遊園を一般利用することについて	12
④ 公園の遊具更新、健康器具の新規設置について	12
⑤ 公園内禁煙の徹底、定期的なメンテナンス	12
⑥ 大型遊具が整備された公園や、地域に親しまれる公園設置	13

はじめに

婦人会の皆様には、日頃の地域活動をはじめ、市政の各分野にわたってご協力をいただいておりますことに心からお礼を申し上げます。

令和5年度の婦人市政懇談会は、「人にやさしいまち神戸をめざして～希望あふれるまちを次世代に～」というテーマで開催していただきました。それぞれの皆様の積み上げられた意見、願いを数多くお聞かせいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

元日に発生した能登半島地震では、広範な地域で甚大な被害が発生しました。あらためて被害を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興のため、震災を経験した神戸として、被災地に寄り添った支援を、引き続き行ってまいります。

2025年1月には阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えます。神戸はこれまで市民が力をあわせ、ともに助け合うことで、震災の苦難を乗り越え、復興と発展を果たしてきました。このことは神戸市民にとって貴重な経験となっています。私たちは、この経験を被災地に届けるとともに、次の世代においても、神戸が他の地域に貢献できる都市であり続けるため、阪神・淡路大震災の経験、知見、教訓を継承してまいります。

令和6年度予算編成にあたっては、SDGs（持続可能性）の視点に基づき「神戸2025 ビジョン」に掲げる施策を積極的に展開することにより、くらしの質と都市の価値を高め、市民一人一人が幸せを実感でき、温かみのあるまちづくりを進めてまいります。また、果敢な成長戦略により、都市の成長を促す好循環を創出していくことで、将来世代が過度な負担を背負い込むことがないように、未来を見据えた持続可能な自治体経営を行ってまいります。

さらに、神戸空港の国際化に向けた取り組みをはじめ、国際都市としての価値を高め、神戸をさらなる高みへ押し上げることで、「海と山が育むグローバル貢献都市」の実現を確かなものにしていきます。以上の考えのもと、6つの柱に沿って、全国的な人口減少局面においても、常に時代をリードする施策を積極的に展開します。

《 6つの柱 》

- 1 市民のくらしと安全を守る
- 2 人間らしい温かい街を創る
- 3 持続可能な神戸を創る
- 4 活気と魅力あふれる神戸を創る
- 5 新しい国際都市 神戸を創る
- 6 DX の活用による参画を進める

以上のような施策を実施していくため、令和6年度当初予算は、一般会計で9,056億円を計上しています。これに空港整備事業などの特別会計、市バスや地下鉄などの企業会計を合わせて、全体では1兆9,269億円となります。

それでは、昨年12月にいただきました要望書「人にやさしいまち神戸をめざして～希望あふれるまちを次世代に～」について、神戸市の考え方や現況をご説明いたします。

I. 駅前リノベーションの推進

(1) 駅前リノベーションの推進

①文化ホール跡地活用の検討について

神戸文化ホールは、本市の芸術文化の発信拠点であり、これからの市全体の賑わいや経済の活性化、都市の競争力強化に資することなどを踏まえ、新たにバスターミナルビルを建設する都心三宮エリアへ移転することとしています。

大ホールの移転先となる雲井通5丁目地区の再開発ビルについては、令和5年(2023年)9月から新築工事に着手し、令和9年(2027年)12月の完成を目指しています。

中ホールの移転先となる雲井通6丁目北地区の再開発ビルについては、雲井通5丁目の再開発ビルの完成頃の事業着手を目指し検討を進めているところで、完成までにはまだまだ時間を要します。

大倉山地区は、長年に渡り、文化・スポーツの拠点として大きな役割を果たしてきており、地域にとっても、広く市民にとっても愛着のある大事な地域であると認識しています。

跡地の検討にあたっては、そうした大倉山地区の歴史背景等を踏まえつつ、地域のにぎわい創出、神戸駅からの動線や回遊性などの視点が重要になると考えており、現在進行しているJR神戸駅北側駅前広場の再整備も踏まえる必要があると考えています。

公共施設が多くある大倉山周辺エリアについて、まちの変化に注視しつつ全市的な観点から将来を見据えた施設のあり方や方向性等について、まずはしっかりと研究していきたいと考えています。

②JR兵庫駅北側駅前広場について

本市では、まちの質・暮らしの質を一層高めることで、都市ブランドの向上と人口誘引につなげるプロジェクトとして、令和元年度から「リノベーション・神戸」を推進し、まちの顔である駅前空間の魅力創造や商業機能・子育て環境などの強化といった様々な事業に取り組んでおり、兵庫駅

北側も対象の一つとして位置付けています。

兵庫駅北側広場は、駅舎と広場が道路で分断され公共交通機関への乗り継ぎなど交通安全上の課題があるとともに、広場の大部分をタクシープールと駐輪場が占め、人が快適に滞在できる空間が少なく、居心地の良い空間ではないといった課題があります。

そこで、広場西側にロータリーを新たに設け、タクシー・一般車の乗降や荷捌きの機能を移転することで駅舎前の道路を廃止し、駅舎と広場の一体化を図るとともに、駅前広場の駐輪場を利便性の高い地下タワー式駐輪場に集約することで、人のための居心地の良い空間を創出する方針で検討を進めています。

また、兵庫駅北側広場から大開駅方面へ伸びる兵庫駅前線は、中央に歩道がある市内でも珍しい構造の道路であり、地域のシンボルとして地域に親しまれていると認識しています。この度の駅前広場の再整備に合わせて、兵庫駅前線についても市民にとって使いやすく居心地の良い道路となるよう、駅前広場と一体となった再整備の検討を進めていきます。

現在、広場の整備内容を具体化するための設計に着手したところです。なお、兵庫駅は昭和5年に開業した歴史と風格のある駅舎であることから、歴史性といった観点も踏まえて整備内容を検討していきます。

まずは、広場の設えを検討するにあたって、第1回目のワークショップを令和6年3月20日（水）に開催しました。引き続き、地域の意見も伺いながら検討を進め、兵庫駅北側周辺が「街の顔」として、駅利用者や市民から親しまれる空間となるよう再整備を進めていきます。あわせて、高架下についても、再整備に合わせたリニューアルをJRに働きかけていきます。

③JR 新長田駅の駅前広場の再整備について

新長田駅前広場では、バスロータリー整備を検討しており、駅の拠点性や交通利便性の向上を目指すとともに、緑に囲まれた憩いの空間も整備し、新長田駅を訪れる方々の交流やまちの活性化につなげたいと考えています。

駅前に人を呼び込み、駅とまちの回遊性を生み出せるよう、引き続き、地域の皆様のご意見を十分にお聞きしながら検討を進めていきます。

④JR 須磨駅周辺の整備について

須磨駅周辺では、須磨海岸が魅力的に生まれ変わり、須磨海浜水族園・海浜公園でも再整備が進められています。須磨駅は須磨海岸エリアへの玄関口であることから、周辺地域の核となる駅前空間づくりが必要と考えています。

しかしながら、長年、再整備に着手できなかつた地域であり、事業化には様々な課題があると考えています。

そのような中、令和5年度には、須磨駅を利用する市民・区民や駅周辺の事業者の皆様などが駅前にどのような機能等を望まれているのかについて、アンケート調査を実施し、多くのご意見をいただきました。アンケートの調査結果については、ホームページで公表するとともに、須磨駅周辺の地域団体や事業者の方々などと、その内容を共有したところです。

須磨駅周辺には市有地がなく、今後再整備の検討を進めるためには、地権者や住民の方々のご理解とご協力が不可欠です。須磨駅周辺の地域団体や事業者の方々などとの対話を重ね、機運を醸成するとともに、様々な世代の住民や来街者にとって、便利で魅力的な空間となるよう、いただいた回答を参考に、再整備の大きな方向性を検討したいと考えています。

須磨海岸につきましては、昨年の海水浴シーズンでは、10万人以上の方にご来場いただき、また、海岸の東に位置する公園エリアには、カフェやレストランがオープンするなど、より一層魅力あふれるエリアへと変化しています。このような状況の中、JR 須磨駅南側については、海岸へのアクセス、利便性の点で課題があると認識しています。

ご要望いただいた JR 須磨駅南側のエレベーター設置については、JR 西日本からは優先順位の課題があると聞いていますが、地域の方々からご要望いただいていること、また、安全安心に誰でも楽しむことができる須磨海岸という意味からも、どのような方法で設置ができるのか引き続き協議していきたいと考えています。

⑤垂水駅周辺整備について

垂水図書館跡の具体的な活用方法についてはまだ決まっていますが、図書館跡の活用策として、子育て支援の充実につながるような機能強化は、優先順位の高い選択肢であると考えています。

図書館跡を活用して新たにできる施設が、ご好評を頂いている児童館・おやこふらっとひろばや、現在整備中の新垂水図書館との相乗効果を発揮し、より一層の子育て支援の充実が図れるよう努めていきます。

⑥新垂水体育館へのアクセスについて

新垂水体育館へのアクセスについては、令和3年度から令和4年度にかけて、段差解消等のバリアフリー化や、歩道橋の舗装リニューアル、照明の増設、案内サイン等の整備を行い、安全・安心で快適な歩行者空間の確保に努めてきました。

しかしながら、令和4年度に実施した垂水体育館でのアンケート調査では、少数ではありますが、分かりづらいとのご意見もあり、まずは垂水体育館ホームページのアクセス情報をより分かりやすいものに変更し、初めてご利用される方へのご案内など、ソフト面の強化を行ったところです。また、より効果的な方法については、皆様にご意見をお伺いしながら、検討していきます。

新垂水体育館まで歩く道が楽しくなるような施策については、まずは、垂水らしいデザインの路面ペイントについて地域の皆様と意見交換を行い、設置に向けて進めています。今後さらに路面等を活用した取り組みができないか検討していきます。

⑦玉津庁舎全体のリニューアルについて

令和4年2月に西区役所が西神中央へ移転後、玉津庁舎については「幅広い世代の方が集う地域交流拠点」を目指し、現在再整備を進めています。

1階には「繋がり合い」のためのカフェスペース、キッズスペースを整備するとともに、4階には「教え合い・学び合い」ができる学習スペース、ライブラリーや、多目的に使用できるホール等を整備します。

また、庁舎の北東側には、子どもから高齢者までがゆったりとくつろげるような芝生広場を整備するとともに、「玉津地域福祉センター」を1階に移転します。

これらすべての改修工事を終えての玉津庁舎全体のリニューアルオープンは、令和6年6月16日（日）を予定しています。

リニューアル後は、玉津庁舎全体のコンセプトとして、『たよりになるまちのアドバイザーが つなぐ場所』を掲げ、行政・民間事業者・地域団体がそれぞれの強みを活かし、三位一体となって、住民の豊かな暮らしに繋げていきたいと考えています。

そのための基盤作りとして、本年1月より行政関係者や周辺地域で活動する団体・事業者などに参画いただき「地域ミーティング」を立ち上げ、事業や施設に関する運営・運用について定期的に意見交換を行っています。

引き続き、玉津支所を中心に関係者が一体となって、玉津地域・玉津庁舎を盛り上げていけるよう工夫を凝らし、地域の連携強化や活性化に繋げていきます。

⑧鈴蘭台駅周辺の活性化・整備について

鈴蘭台駅の周辺では、平成30年度に北区役所を含むベルスト鈴蘭台が竣工し、現在は新北区文化センターの整備や土地区画整理事業が行われ、更なるまちの整備が行われています。

鈴蘭台駅前のにぎわいのために、ベルスト鈴蘭台の管理会社による、学校や周辺店舗と協力したイベントや定期的なキッチンカーの出店が行われており、多くの方がご利用されています。また、駅前の安全性や回遊性向上に向け、歩行者動線の整備も行っています。

魅力ある地域づくりを進めていくためには、地域の主体的な取り組みが必要と考えています。鈴蘭台周辺では、これまでも商店等を営む皆様によって様々な活動がなされています。鈴蘭台エリアで活動されている方と関わりを持ちながら、地域人材の交流を進めていったり、地域で頑張る事業者の方々の取り組みを支援していくなど、今後もきめ細かく進めていきます。

新北區文化センターについては、令和8年度中のオープンを目指し、整備事業に取り組んでいます。

途中で一休みできるスペースについて、地域のご意見をお伺いしながら交番跡地にベンチを設置し、2月よりご利用いただけるようになりました。

また中畑山南公園についても、勾配の緩やかな安全な経路や、親子で立ち寄ってみたいと思えるような居心地の良い空間となるよう令和6年度末を目標に整備を進めていきます。

Ⅱ. 子どもがのびのび学び、健やかに成長できる環境整備

(1) 地域コミュニティの核となる小・中学校、幼稚園の教育環境整備

① 学校施設の増築や広い校区への対策について

本市では校区内に居住する幼児数や集合住宅の建設予定などをもとにした児童生徒数の推計に基づき、教室不足の恐れがある学校については過密化対策として教室改修や校舎の増築を行っており、中央区のこうべ小学校において、現在校舎の増築工事を進めているところです。

また、令和5年6月に策定した「学校教育環境の向上及び学校規模の適正化に関する基本方針」に基づき、学校規模適正化の観点から小規模校や大規模校の校区変更等について検討することとしており、周辺校の状況も踏まえ、どのような取り組みができるか保護者や地域の皆様のご意見を伺いながら、教育環境の改善・向上に努めていきます。

② 各地域における学校の役割や歴史などに十分配慮した支援

教育委員会では、令和5年6月に「学校教育環境の向上及び学校規模の適正化に関する基本方針」を策定し、今後、市内全ての小規模校に対して、校区変更、学校統合、義務教育学校への移行、合同授業等の学校間交流といった取り組みを進めることで、よりよい教育環境の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

これまで各校で実施してきた取り組みを充実させることも含め、学校や地域の状況に応じた取り組みの考え方について、まずは保護者や地域の皆様にご説明し、ご意見をいただき理解を得ながら進めていきます。

③「義務教育学校八多学園」について

八多学園では、開校以来、中学校教員による5・6年生への教科指導や、小学校教員と中学校教員の連携による協同授業、海外とのオンライン交流等の特色ある教育を実施しています。

さらに、地域資源を活かした探究学習・キャリア学習として、地域団体と連携し、農業体験や商品・サービス開発まで行う取り組みも新たに開始しました。

八多学園で実施しているこうした教育活動につきましては、しっかりと地域の子育て世帯の皆様へ周知していく必要があると考えています。そのため、八多学園の取り組みを紹介するパンフレットや、北神区役所公式 SNS 等の活用など、様々なツールを用いて積極的に発信していきます。

今後も、保護者や地域の皆様と連携しながら、魅力ある学校づくりに、より一層取り組んでいきます。

④市営住宅跡地などを活用した認定子ども園の整備

本市の保育ニーズは、令和4年度から5年度にかけてピークを迎えており、今後減少していくものと見込んでいます。このため、認定こども園の整備などの、教育・保育の提供については、事業計画（神戸っ子すこやかプラン2024）に基づき、地域ごとに現在および将来の就学前児童数の推移やニーズなどをふまえ、総合的に判断していく必要があります。

引き続き、地域の皆様のご意見をお聞きしながら、からとのまちづくりや子育て支援の観点からふまえ、将来にわたって質の高い教育・保育を安定的に提供していきたいと考えています。

⑤市立魚崎幼稚園における3年保育の実現について

本市ではおよそ400か所、東灘区内ではおよそ60か所ある公・私立の幼稚園・保育園・認定こども園等で連携・協力して全市の幼児教育・保育を進めており、3年保育を利用したいというご希望についても公・私立全体で対応しているところです。

3年保育については、幼児の育ちや子育て支援の観点から意義があると

考えていますが、3年保育を含む今後の市立幼稚園のあり方を検討するにあたっては、神戸市全体で幼稚園での教育を希望する幼児数が減少している状況も、念頭におかなければならないと考えています。

こうした状況や考え方のもと、市立幼稚園については集団保育の確保に向け、また、幼稚園の就園ニーズや今後の公立としての機能・役割を見据えた再編等を検討しています。

3年保育について、東灘区では御影幼稚園ですでに実施していることから、それぞれの幼稚園に通園できる区域を見直すなどして、市立幼稚園の3年保育のご希望にも対応していきます。

子どもたちにより良い教育機会を提供できるよう、今後も私立幼稚園等と連携・協調しながら取り組んでいきます。

(2) 子どもが思いきり遊べる環境整備

①公園再整備や行政の支援強化について

ボール遊びができる公園の再整備については、今ある遊具等施設の利用状況を把握したうえで施設の再配置やフェンス改修を検討するなど、利用ニーズに合った公園づくりを進めていきたいと考えています。

また、禁止事項が多く遊びにくいといった公園イメージについても、地域の皆様と話し合いながら、公園ルールの見直しやわかりやすい看板を設置することで、子どもたちがのびのびと公園でボール遊びができるよう取り組んでいきたいと考えています。

②公園内の年代による区画分け

幼児や小学生から高齢者など、幅広い世代でにぎわう、地域の顔となる拠点公園の整備や周辺地域の特徴から、今ある公園の機能をニーズに応じて再編することで、小規模でも魅力ある公園づくりを目指します。

また、再編にあたっては、「幼児が安心して遊べる公園」や「ボール遊びの出来る公園」など、地域ごとにニーズが異なるため、皆様のご意見をいただきながら、今後とも、公園が積極的に活用され、地域の交流や憩いの場として親しんでいただける、魅力ある公園づくりに努めていきます。

③市営住宅（八幡住宅）の児童遊園を一般利用することについて

八幡住宅の児童遊園については、より地域の方が利用しやすい環境づくりに向けて、灘区役所が婦人会、市営八幡住宅自治会の皆様、児童館その他関係部局と協議を行っています。

その中で、既存のスロープを利用して広場に入れるようバリアフリールートを確立し周知するなど、利用者の利便性向上に向けた取り組みを行っていくことになりました。

また、地域団体が行う催しなどで児童遊園の活用等を図っていくことも検討しています。

今後も地域全体で児童遊園の利用しやすい環境づくりのため、児童遊園を利用する地域団体や関係者が一緒になって、清掃や草刈りなど可能な範囲で管理者である市営八幡住宅自治会に協力できないか検討していきます。

④公園の遊具更新、健康器具の新規設置について

遊具等の公園施設については、その緊急性や重要性から、計画的に古くなった施設の改築・更新を進めています。

更新する際には、子どもがわくわくするような複合遊具や、高齢者も含め様々な方が利用できる健康遊具などを、地域からいただいたご意見や利用状況の他、立地・環境も考慮し、整備の優先順位を決めながら、引続き計画的に対応していきます。

⑤公園内禁煙の徹底、定期的なメンテナンス

公園内の禁煙については、これまでも神戸市のホームページや公園看板により周知しているところですが、公園ごとの喫煙やタバコのポイ捨て状況に応じて、追加で周知看板を設置するなど、禁煙の徹底に取り組めます。

また、植栽については定期的な剪定に加え、見通しを遮っている植栽を撤去するなど、公園内を明るく見通しを良くすることで、引き続き安全・安心な公園づくりに努めていきます。

⑥大型遊具が整備された公園や、地域に親しまれる公園設置

身近な公園の再生に向けて、多様な世代が集う、まちづくりの核となる公園を拠点公園として位置づけ、「子どもの遊び場」や「地域の交流の場」となる、にぎわいのある公園づくりにも計画的に取り組んでいます。

子どもがわくわくし、地域のシンボルとなる遊具についても、しあわせの村など広域的な利用のある大規模公園や、各区の拠点となる公園において整備を進めており、西区においても、シンボリックな遊具を整備する等、地域の顔となり、地域に親しまれる公園整備を進めていきます。

昭和43年に始まった婦人市政懇談会は、令和5年度で実に56回目を迎えました。市政の様々な課題について、婦人会の皆様と行政とが直接対話を積み重ねてきたこの取り組みは、他都市に類を見ないものであり、次世代に引き継いでいくべき神戸の財産であると考えています。

この婦人市政懇談会を通じて婦人会の皆様からいただいたご意見、願いをしっかりと受け止め、婦人会の皆様をはじめ、市民の皆様「住み続けたい」と思っていたけるまちをめざします。

海と山の豊かな自然環境、開港以来育まれてきた国際性や多様性、芸術文化といった神戸の強みを磨き、活かしながら、日々進化するテクノロジーを積極的に取り入れ、環境保全などグローバルに貢献するまちづくりを進め、市民の皆様が心豊かに幸せを実感できるまちの実現をめざし、今後とも職員一丸となって取り組んでいきますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和6年4月12日

一般社団法人 神戸市婦人団体協議会
会長 小野愛子様

神戸市長 久元喜造